

学校だより：

# 岩中リポート

特別号 令和2年10月30日（金）発行 発行責任者 校長 馬場廣明

## 県読書感想文コンクールで特選に輝きました！ 2年2組の●●●●くん、頑張りました！！

学校だより「岩中リポート」第34号（10月12日発行）でもご紹介しましたが、●●くんは岩瀬地区で特選に輝き、地区の代表として県に出品されました。何とその作品が最高位である特選に輝きました。おめでとうございます。たいへんに素晴らしい内容ですので、ぜひ以下の全文をお読みいただければと思います。なお、特選は県内で小学校1年生～中学校3年生まで各学年5名だけの受賞となります。

（全文より）

「多様性って、面倒くさい」

多様性っていったい何だろう。最近、多様性という言葉をよく耳にする。しかし、多様性の定義が僕にはよくわからなかった。

しかし、「ぼくはイエローで、ホワイトでちょっとブルー」を読み進めていく中で、自分の多様性の定義が形となり、少しずつ浮かび上がってきた。

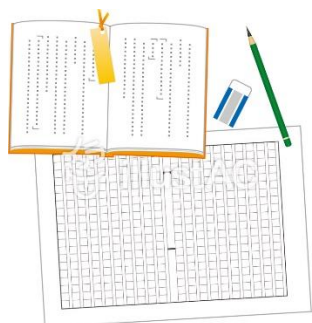
この「ぼくはイエローで、ホワイトでちょっとブルー」は英国を舞台に、日本人の母親とアイルランド人の父親を持つ著者の息子が中学校で直面するさまざまな問題が描かれている。

作品のタイトルの「ぼくはイエローで、ホワイトでちょっとブルー」は息子がノートの端に書いた言葉だ。日本人の母を持つ彼はイエローでホワイト、これを読んだとき、海外では日本人がイエローと呼ばれていることに小さな衝撃を受けた。ホワイトに比べてイエローには侮蔑の響きを感じたからだ。日本人に囲まれて生活している僕は、日本人であっても、「イエロー」とよばれることはない。最近、ニュースで目にする黒人への人種差別、いけないことだと思っていたが、自分が差別される側だという実感はなかった。その「イエロー」である彼はどうして「ブルー」になっているのか、その理由が知りたくなった。日本と異なり、さまざまな人種が生活する英国では、年齢や性別以外にも多様性について考えることが多いのだろう。

この本で初めて知った言葉に「エンパシー」がある。エンパシーとは他人の感情や経験を理解する能力のことだ。息子は、英国では日本と異なり、その人の考え方、捉え方をみるテストがある「エンパシーとは何か。」というテストに対し、息子は「自分で誰かの靴を履いてみること」

と答える。エンパシーって難しいな、と考えていた僕の胸にこの言葉はすとんと落ちた。誰かのことをかわいそうと心の中で同情するのは簡単だ。しかし、自分に合った自分の靴を脱ぎ、他の人の靴を履いて、その履き心地の悪さを味わなければ、本当の意味で相手の立場になって考えることはできないと思ったからだ。

日本は、英国ほど多様な国の人々が生活していない。だからこそ、日本人以外の人を「ガイジン」として差別していることもあると思う。自分も何気なく「ガイジン」とか「外国の人」という言葉を使うことが



ある。悪い意味ではなく、僕の住む地域では、まだ外国の人は珍しいからだ。しかし、これもよく考えて見ると、「どこかに属している人は、属していない人のことをいじめたりする反面、属している人を特別に守ったりする。」ということにつながっているのではないかと考えた。こいつは敵、こいつは仲間というように人を区別する考え、これが争いを生み出す火種となっているのだと思う。

たとえば、学校生活の中でも、クラスの中で、意見を話し合う場面がある。意見をまとめる際に、その発言の内容よりも、周囲の反応、もしくは自分の属しているグループの人の意見であることを重要視して、判断する人が多いように感じる。誰にとっても気の合うグループ、本音が言えるグループやコミュニティがあるのは良いことだ。しかし、その中で満足し、それが正しいと思っていると、公正な立場での判断ができなくなる。他のものの見方ができなくなり、自分に近いものだけが正しいと考えるようになる。このような行動が差別に直結しているのだと思う。

この本を読んで、僕なりの多様性の定義ができた。僕の考える多様性の定義とは、自分とは違う考えの人を受け入れるという大雑把なものではなく、その人の立場になって一つ一つ慎重に考えてあげること、たとえば、軽々しく「ガイジン」など口にしないことだ。そして、わからないもの、自分とは違うものを自分たちに属さないもの、として区別しないことだ。

こう考えていくと、平等な社会に必要なとされる多様性は楽ではないことに気づいた。しかし、楽ではないから必要なのだと気づいた。なぜなら「楽ばかりしていると無知になるから」だ。これから、日本も様々な国の人々が生活するようになるだろう。一人一人が多様性について考えることは、差別のない社会を作る上で必要不可欠だ。そして、多様性への理解は人種だけではなく、年齢や性別、貧富の差もある。「他人の靴を履いてみること」それが、差別や偏見をなくす第一歩になると思う。

息子は、最後に「いまはどっちかっていうと、グリーン」と言う、グリーンには未熟という意味がある。これを読んで僕もグリーンだと思った。まだ、未熟で知らないことだらけだ。でも、今の僕には決めていることがある、それは、多様性は面倒くさい、と逃げないこと、そして誰かがブルーにならないよう知識を身につけることだ。イエローもホワイトもブラックもブルーにならないように。



## 三者教育相談、お世話になっております。



28日(水)から11月5日(木)まで、三者教育相談が実施されています。すでに各担任より相談日はお知らせしてありますが、有意義な話し合いになればと思います。お子さまの欠点やマイナス面ばかり指摘するのではなく、「すべてはお子さまのために」前向きな話し合いをお願いします。お子さまが今回の面談をとおして、今以上に「自信をつけた」「やる気を出した」などのプラスの変化が表れることを期待します。なお、お子さまがいてなかなか話せないような内容等につきましては、日を別に改めたりするなどの配慮もできますので、各担任までご相談ください。お忙しいなか、お世話になります。また、たいへんに失礼かとは思いますが、「三者共にマスクを着用しての相談」「パーティション(アクリル板の衝立)を使用しての相談」とさせていただきますので、ご了承ください。

## 寒くなってきましたので、防寒具の着用を！

朝夕とたいへんに寒くなってきましたので、そろそろ防寒具の着用をお願いします。特に自転車通学の生徒は防寒具+手袋やネックウォーマーなどもあると効果的であると思います。

～ 本校ホームページ、アクセス数116万件を突破しました。今後ともよろしくお願いいたします。 ～